

自民党は6000人の中国人に蹂躪された長野聖火リレーの屈辱を忘れたのか！
次期首相の座を狙う中川秀直
がたくらむ日本滅亡のシナリオ

1000万人

移民受け入れ政策を
粉砕しよう！

の移民によって日本を多文化共生の国に変えるべきだ”と主張しています。

20世紀に労働力不足を補う為に安易に移民立国を実施してきたヨーロッパでさえ、文化軋轢や生活レベルに対する不満から民族主義に目覚めた移民に依る暴動で、国内の治安が犯される事態が頻繁に発生し、各国政府は「移民立国政策」が誤りであった事を認めているのですから、自民党のこの政策はヨーロッパと同様に、近未来において日本を混乱に陥れる戦慄のシナリオなのです。

この政策の一環として短期的には留学生倍増計画（30万人）、長期的には留学生100万人受入れ構想や外国人看護師、介護士の受入れを進め、既にインドネシアから300人の看護師の来日が決っているのです。

貧しい国から豊かさを求めて日本に移民してくる外国人は、いずれ日本人と同様の待遇を求めて不満を募らせ、日本独特の伝統文化と慣習を拒否して日本国内に彼らだけのコミュニティを作り、高度な教育や社会保障の権利を要求するでしょう。その時、日本は彼らのために相当なコストを覚悟しなければなりません。今でも年金問題が破綻を来しているというのに、1000万人の移民に日本人と同様の扱いが可能とは思えません。

1000万人移民の殆どは中国人やインドネシア人、韓国人などに代表されるアジア人となるでしょうが、民族意識の高まりや反日教育を受けて育った彼らが本国の指令を受けて反日行動を起すだろうと言う予測は、冒頭の写真で実証されています。そうなれば日本全国で長野市に起った悲劇が繰返される恐れがあります。

時を同じくして「人権擁護法案」や「外国人参政権法案」を実現しようとする勢力が暗躍していますが、「1000万人移民法案」もその目的とする根っこは同じであり、それは国益を無視する売国奴勢力とグローバリズム至上主義の財界による「日本の非日本化」政策であります。

2000年以上にわたる日本の歴史と国体の存続は人類の奇跡と言っても過言ではありません。私達は目先の欲望や都合でこの国の存続を危うくするような如何なる政策にも断固として”NO!”と言続けなければ、私達の先祖やこれから生れてくる子孫達に申開きが出来ません。

無謀な1000万人移民受入れ政策を進める自民党と中川秀直に断固として反対しましょう。

